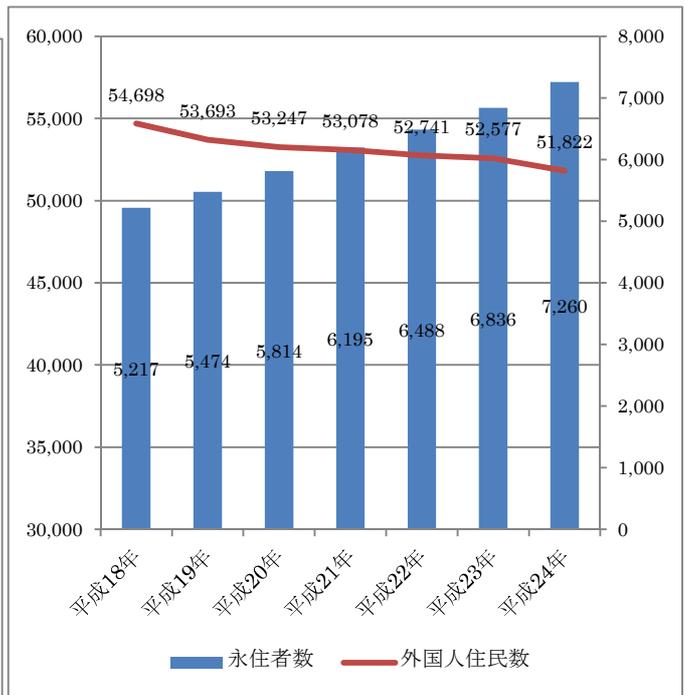
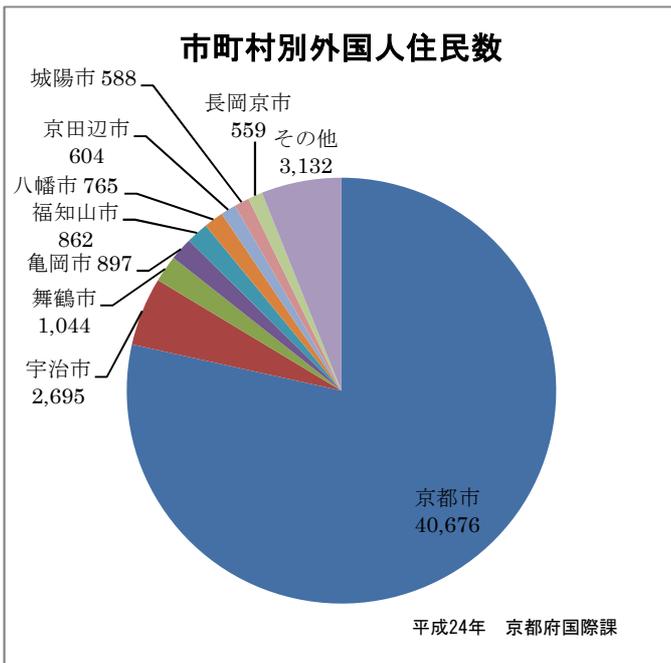
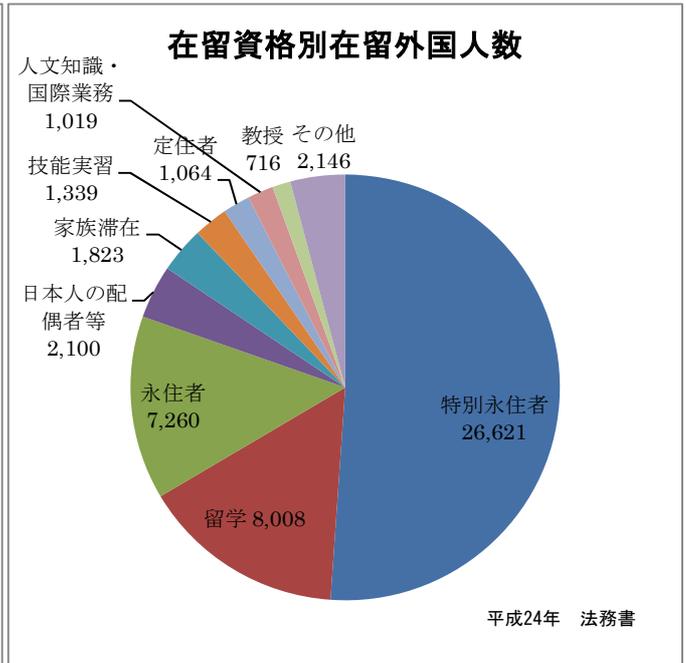
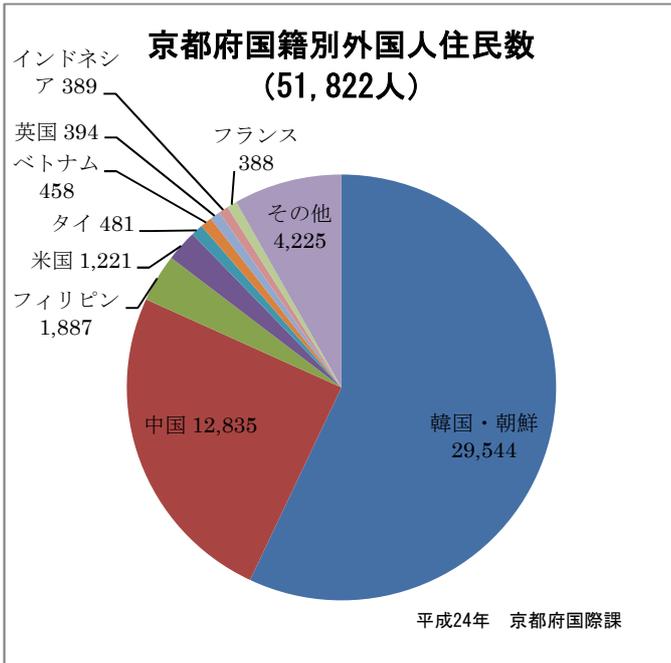


## 地域における多文化共生のための日本語学習支援事業

公益財団法人 京都府国際センター  
 事業課長 近藤 徳明

### 1 日本語教育事業実施の背景

#### (1) 京都府の外国人住民について





3 日本語教育事業の実施体制と主な取組

(1) 地域のリソース

- 市町村国際化協会
- 日本語支援ボランティア
- 大学
- 日本語学校
- 地域日本語教室ネットワーク組織

京都にほんご Rings  
 京都府内 16 のボランティア日本語教室から構成されるネットワーク団体。当センターとの相互連携により日本語支援ボランティア・団体をサポート

(2) 取組内容

①人材の養成・研修

- 日本語支援ボランティア養成講座
  - ・日本語学習支援を担う人材を養成することで、地域日本語教室の立ち上げを支援する。
  - ・京丹後市（平成 21 年度）、城陽市（平成 23 年度）、南丹市（平成 25 年度）で実施
  - ・京都にほんご Rings、京都教育大学、京都日本語学校などの協力を得て実施



平成 25 年度日本語支援ボランティア養成講座（南丹市）

回	内容	講師
1	イントロダクションー日本語支援ボランティアとはー ・生活者のための日本語教育 ・日本語教育と国語の違い ほか	京都教育大学教授
2	演習 1 動詞のます形・普通形について ・使う場面や使い方を考える ・ます形・普通形の解説 ・教え方の紹介	宇治国際交流クラブ
3	演習 2 動詞のて形・た形について	京都国際文化協会
4	演習 3 動詞のない形について	朋友館
5	実習 1 外国人学習者を迎えての模擬授業演習 1, 2, 3 で習ったことを使って、実際に外国人学習者に教えてみる。	京都にほんご Rings
6	演習 4 形容詞について	宇治国際交流クラブ
7	演習 5 可能形について	朋友館
8	演習 6 敬語について	宇治国際交流クラブ
9	実習 2 外国人学習者を迎えての模擬授業演習 4, 5, 6 で習ったことを使って、実際に外国人学習者に教えてみる。	京都にほんご Rings
10	まとめ ・ネットワーキングについて ・ふりかえり	京都 YWCA・APT ほか

\* 各回共に演習 1 のようにテーマについて解説、教え方をご紹介します。

平成 25 年度都道府県・市区町村等日本語教育担当者研修  
 < 事例報告 >

■日本語支援ボランティア研修会

- ・ボランティアのレベルアップを通して日本語学習支援の充実・活性化につなげる。
- ・綾部市，福知山市，京丹後市で合同研修会を実施（平成 21 年～24 年）
- ・今年度は京都日本語学校を講師に迎え，南丹市，京丹波町，亀岡市を加えた 6 市合同研修会を実施

②ネットワークの形成

■京都府北中部地域日本語教室ネットワーク会議

- ・第 1 回準備会（平成 24 年 12 月），第 2 回準備会（平成 25 年 3 月）

- ・第 1 回ネットワーク会議（平成 25 年 8 月）

参加団体：市町村国際化協会および地域日本語  
 教室 11 団体



※南部地域については「京都にほんご Rings」定例  
 会議を年 4 回実施

■「京都にほんご教室マップ」の作成

- ・府内 23 カ所の地域日本語教室の情報を掲載
- ・日本語，英語，中国語，韓国・朝鮮語，  
 フィリピン語表記
- ・各教室の広報強化
- ・WEB 版の公開



③学習教材の作成

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」を活用して作成  
 （協力：京都教育大学教授）

■基礎クラス A・B

目標行動：自己紹介，物の名前を尋ねる，売り場を聞く，家族の紹介，目的地を尋ねる，  
 忘れ物を届け出る，診察を受ける，日本と出身地との比較，人を誘う，面接を受ける，  
 災害情報を聞いて適切な行動をとる

■会話クラス

目標行動：地域の地理や店を調べる，公共の交通機関を利用して目的地に行く，  
 希望通りの注文をする，自分の意見・反対意見を述べる

下記文化庁 HP よりダウンロードができます。

平成 24 年度地域日本語教育実践プログラム (A) 公益財団法人 京都府国際センター

[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/kyouiku/seikatsusya/h24/nihongo\\_program\\_a.html](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/seikatsusya/h24/nihongo_program_a.html)

④モデル日本語教室の設置

外国人住民のためのにほんご教室

・年 2 回（5～7 月，10～12 月）

基礎クラス（20 回），会話クラス（10 回）

・学習教材の公開と府内日本語教室からの授業見学受け入れ

→モデル日本語教室としての位置付けが明確に



4 成果と課題

成果：日本語教育に係る養成講座や研修会を各地域と連携して実施したことにより，日本語支援を行う人材の育成・養成だけでなく，府内日本語教育関係団体とのネットワークの構築も前進した。

加えて，地域の日本語教育の質の向上につながるよう公開・配布を前提とした学習教材の作成により，府内の日本語教育体制の整備に一定の成果を得た。

課題：日本語教育体制の充実を図るためにはその必要性を一般住民および行政に理解してもらう必要がある。そのためには日本語教育の意義を広く知らせる必要がある。

5 今後の方向性

■日本語教室への理解促進

一般住民にとっては遠い存在である日本語教室や日本語学習支援を広く知らせるための取組

■初期指導の取り扱い

日本語教室において初期指導の取り扱いが課題

特に日本語教育の人材が不足している北中部においては顕著

学習者は地理的事情によって当センターのような機関を利用できないので，ボランティア教室がやむなく初期指導を担っている状況でその対策が必要